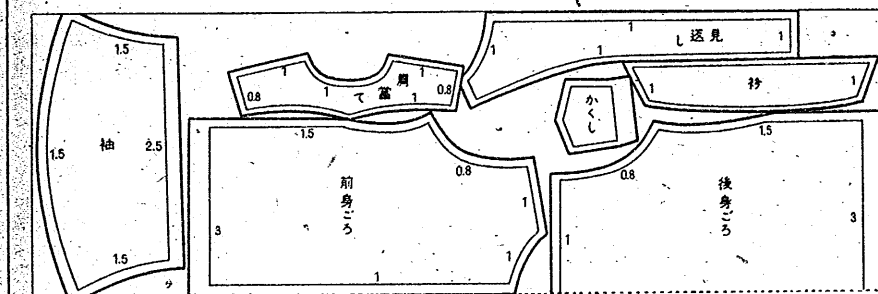


開き不良

三男兒服

布幅
七二センチ（一
尺九寸）
胸まはり
五八センチ（一
尺五寸五分）



十四

K/50,5-3.

昭和二十一年三月二十二日 翻刻印刷
昭和二十一年三月三十日 翻刻發行
〔昭和二十一年三月二十二日文部省検査済〕

高等科裁縫 第二學年用（第一分冊）

定價金四拾錢

著作權所有
發行者
文部省

東京都京橋區銀座一ノ五

大日本圖書株式會社
發行者

代表者 佐久間 長吉郎

印、監者 佐久間 良吉郎

東京都牛込區市谷加賀町一ノ三
印刷所 大日本印刷株式會社

印刷所 大日本印刷株式會社

東京都京橋區銀座一丁目五番地

發行所 大日本圖書株式會社

Approved by Ministry
of Education
(Date Mar. 22, 1916.)

1953 12 輸入

縫い方

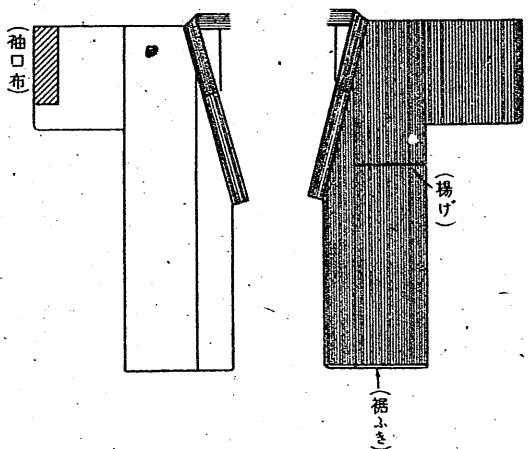
- イ、かくし
- ロ、見返し
- ハ、肩布附け
- ヘ、肩當て附け
- ホ、衿・衿附け
- ニ、袖附け
- ヒ、袖下・脇縫ひ
- テ、袖口
- リ、裾
- ス、穴かき
- ル、仕上げ
- ヲ、ボタン附け、紐通し

参考、ズボンつりの胴衣

もと型の丈を一〇センチ(二寸五分)ぐらゐ伸ばします。衿肩あき・袖ぐり共に二センチ(五分)ほど大きくします。
 ●前合はせにしますから、シャツのやうに、左右の重なりの半分二センチ(五分)を前端に加へます。
 脇縫ひは附けなくてもよいのです。
 ボタンを附ける所へは當て布をしておきます。
 だすきを附ける場合、ズボンの上部のゆるみは、全體で四センチ(一寸)ぐらゐにします。

四 男物衿長着

一形



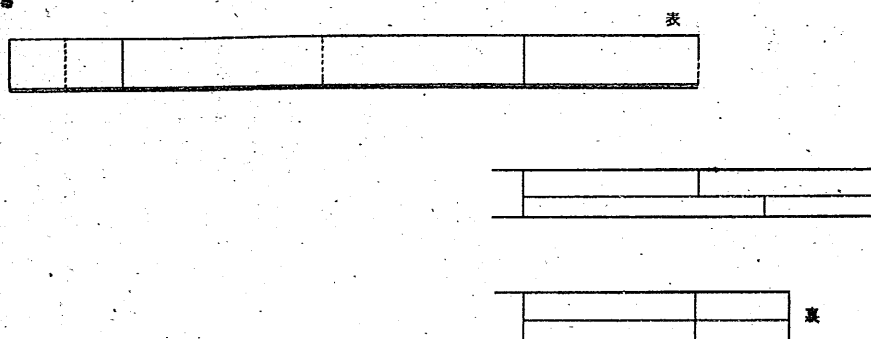
二用布

表・裏・袖口布

三寸法

着丈	一三六センチ (三尺五寸八分)
ゆき	六六センチ (一尺七寸五分) 内外。
身幅	三〇センチ (八寸)
前後	二五センチ (六寸五分)
肩幅	三二センチ (八寸五分)
袖丈	三八センチ (一尺)
袖口	二五センチ (六寸五分)
袖幅	三四センチ (九寸)
衿下り	二〇センチ (五寸三分)
衿幅	一五センチ (四寸)
合ひづゑ幅	一三・五センチ (三寸六分)
衿下	六五センチ (一尺七寸)
衿幅	五・五—六センチ (二寸五分—一寸六分)
衿肩あき	九センチ (二寸四分)
揚げ 肩から五二センチ (一尺五寸) 内外。	
裾ふき	〇・三センチ (一分)
裁ち切り寸法	
袖丈 身丈	
衿肩あき 衿丈	
衿幅 衿丈	
袖口布	

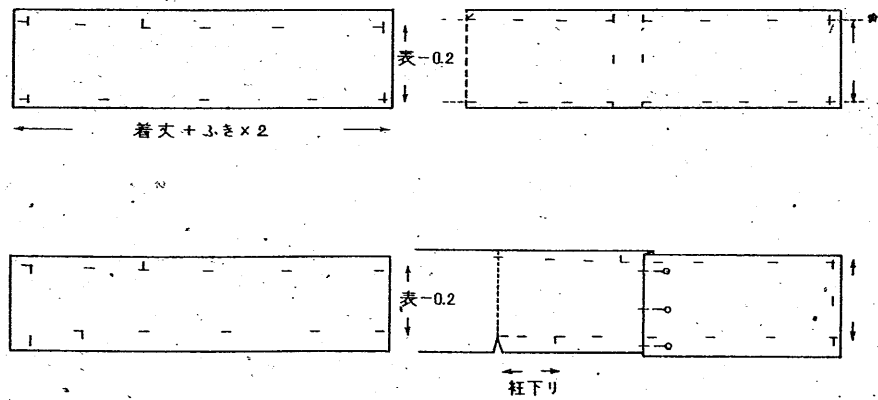
五 裁ち方



六 しるし付け

表身ごろ

裏身ごろ



七 縫ひ方

イ 袖口布掛け

ロ 袖口合はせ

一ハ 袖口下及び袖下

袖口の四つ留め

内袖の表裏で外袖を挟んで留めます。

ニ 表の背縫ひ、揚げ

ホ 表の脇縫ひ、衿付け・脇縫ひ代の始末

八 仕上げ・疊み方

ヲ 衿付け・衿くけ・掛衿

ル 袖付け

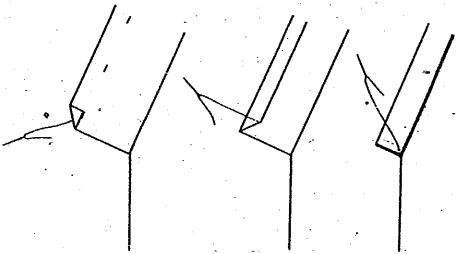
ヌ 衿下縫ひ

リ 背脇・衿の縫とち

チ 裾合はせ、裾とち

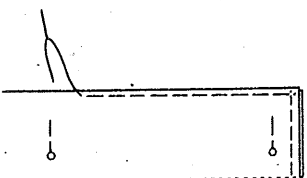
ト 裏の脇縫ひ、衿付け

ヘ 裏の揚げ、背縫ひ

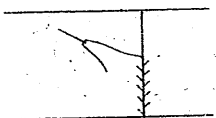


五半幅帯

- 一 形
- 二 用布
表布 地質と色・柄
心布
- 三 寸法
幅
丈 垂れ・胴まはり・手
地なほし
表布 耳伸し・火のしかけ
心布
- 四 しるし付け
假とち
丈・幅のしるし
- 五 縫ひ方
(一) 側縫ひ
イ 兩端から一五センチ(四寸)ぐらゐ半返し縫ひにし、他の所は糸がつれないやうに縫ひます。
ロ 返し口とかくし口
ハ 兩端 半返し縫ひにします。
ニ 角は 〇・八センチ(二分)ぐらゐ縫ひはないで残します。
ホ 折りさせ



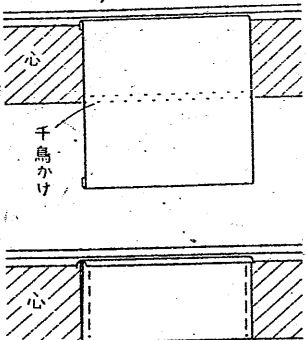
- ヘ 角の始末
(二) 心
イ 出来上り幅に裁ちます。
ロ 心のはぎは、突合はせはぎにします。



- ハ 心とち
(三) かくし布付け



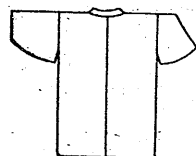
- (四) 引返し・返し口くけ
(五) しつけ
七 仕上げ
八 しめ方



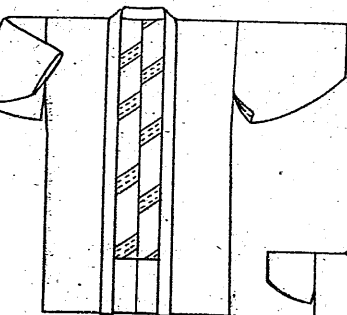
六 半てん・羽織

一 半てん

(一) 形



(二) 用布



(三) 寸法

身丈 八〇センチ (二尺一寸) 内外。膝裏より七センチ (二寸) ぐらゐ上まで。

くり越し ゆき 袖幅 肩幅 後幅

前幅 脇は後幅のしるしにならひます。

袖丈 袖口 袖附け

身八つ口 九・五センチ (二寸五分)

衿肩あき

衿幅 三・五―五センチ (五分から一寸三分)

ねぢ袖 袖口 一五センチ (四寸)

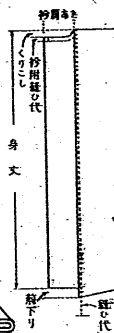
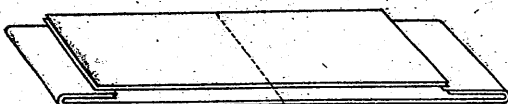
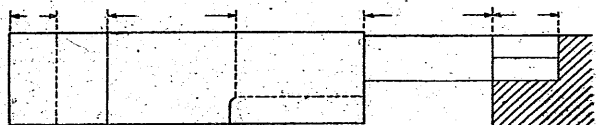
袖附け 四二センチ (一尺一寸)

(四) 裁ち切り寸法

身丈 裾の折り返りを一ばいにするともあり、裁ち切り身丈を十分に取ることあります。

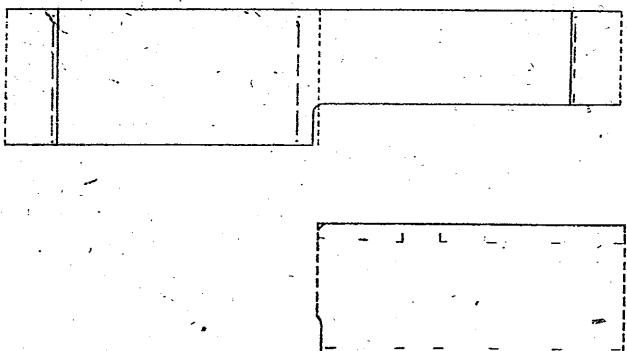
衿 裁ち切りの丈・幅を考へなさい。

(五) 裁ち方



袖口布は共布の場合と、別布の場合とがあります。
掛衿を掛けることもあります。

(六) しるし附け



七 縫ひ方

(一) 袖

(二) 身ごろ

イ 胸はぎ

ロ 背縫ひ 四つ縫ひにします。

ハ 脇縫ひ 縦とち

ニ 身八つ口

ホ 袖附け

ヘ 衿附け 衿先・衿くけ

前身ごろの衿附けの假とち

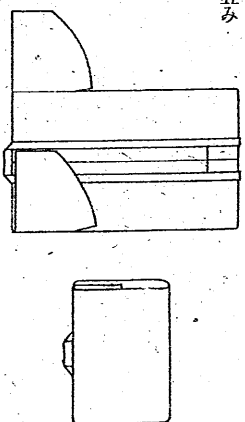
釣合 衿肩廻りの圓みの所は、身ごろの縫ひ代を十分伸した長さに衿を合はせ、他は同じ釣合にします。

縫ひ方 衿肩廻りは小針に他はあらく縫ひ、全體に糸のつれないやうに注意します。

衿先 じゅばんのやうに縫ひ、縫ひ代のとちは、表に針目の出ないやうにします。

八 仕上げ・疊み方

夜着疊み



九 着方

二 羽織

(一) 形



(二) 寸法

身丈 八五センチ(二尺二寸五分)内外。肩から膝裏までぐらゐ。

前下り 三センチ(八分)

乳下り 三二センチ(八寸五分)

後幅・前幅 脇裾で二センチ(五分)ひろげる。

衿幅 五・五―六センチ(二寸五分―二寸六分)。

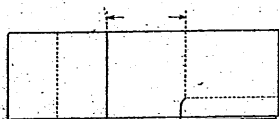
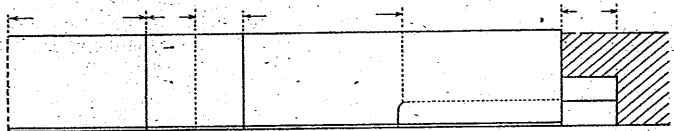
(三) 裁ち方

衿 並幅または半幅

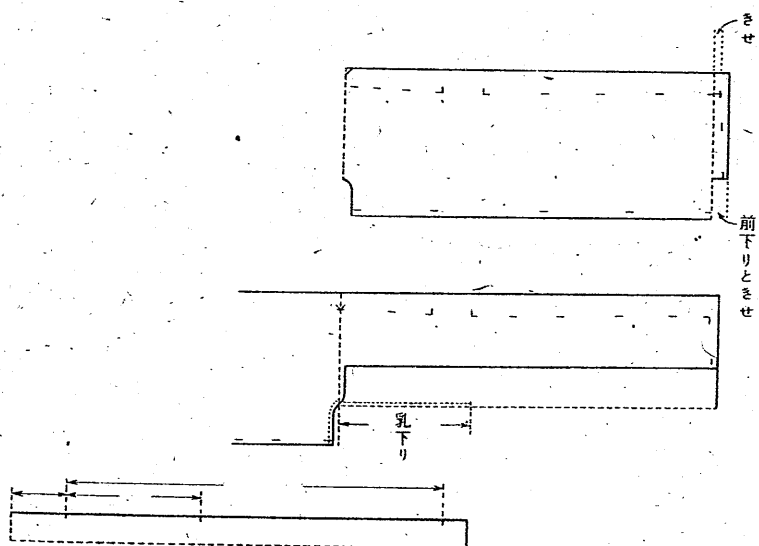
裁ち切り丈はどれだけになりますか。

裁ち切り衿丈

裏布は何程いりますか。



(四) しるし附け方



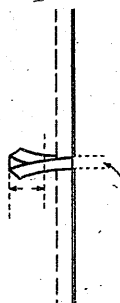
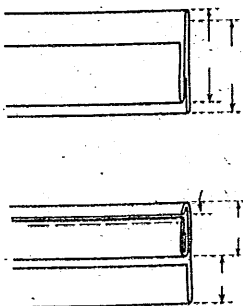
(五) 縫ひ方

裾に心を入れることもあります。

前下りはしるし通りに縫ひ、裏の方へきせをかけます。

乳附け・衿附け

衿は身ごろの裏に當てて附けます。

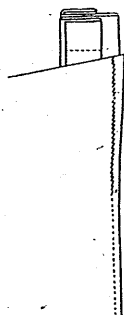


衿は身ごろの裏に當てて附けます。

衿と身ごろの釣合は肩から乳までは衿をゆるく、他は半てんと同じやうにします。

衿先では身ごろを自然に縫ひ込み、縫ひ代の折り返る間は半返し縫ひにします。乳附けの所も半返し縫ひにし、他は大體半てんと同じやうにします。

衿先

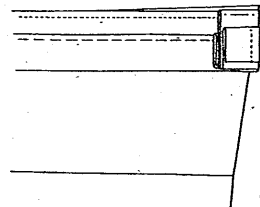


衿くけ

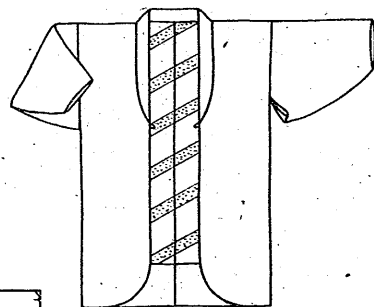
衿肩あきの所は、特に縫ひ目の見えないやうに、小針にくげます。

(六) 仕上げ・疊み方 本疊みにします。

(七) 着方



参考 標準服乙型の羽織



寸法

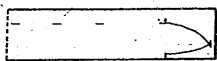
前下り なし

衿幅 五・五―六センチ

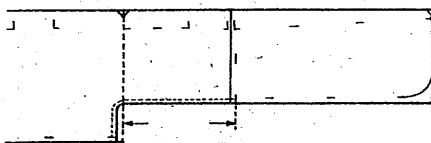
(一)寸五分から一寸六分) 衿

衿は乳下りまで附けます。

しるし附け



前



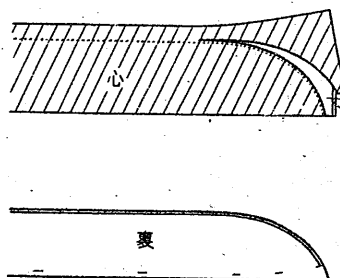
縫ひ方

袖付けまでは羽織の要領で縫ひます。

衿下・裾の四み・

衿

表布
裏布



衿付け

表身ごろに裏衿を當て、衿先の方は、やや張り加減に合はせて附けます。次に衿先の所に乳を附けて、裏身ごろをくけ附けます。

七 衣類のくり廻し

おとな物を子供物に、うは着をもんべに仕立てかへたり、布を天地したり、染めかへたり、裏を表に返したり、凡そこれらの仕事をくり廻しといつて、わが國婦人の最もすぐれたところとしてゐます。物資も、勢力も、時間も、心なしに使ふことの許されない今日、このくり廻しの巧拙は國運の消長にさし響くものがあります。

巧拙といつても、手ぎはのよしあしとばかりは限りません。一年を通じて、數年を通じ、衣類生活の計畫を立て、日々細やかな心づかひを以つてこれを経営して行くことが、また大へん大切なことであります。

もちろん、現在、私どもの衣類の持ち數は極めて制限されてゐますが、それでもなほ簡素にすればできる餘地がないとはいはれません。これができるだけ簡素にするのは、經濟上の利ばかりでなく、精神生活の緊張とすが／＼さをもたらすものであります。

必要な衣類の種類や持ち數を切りつめたら、次には、一日、一週、一月、一年に互つて、着用・手入れ・保存・調製の豫定を立てなくてはなりません。例へば洗濯をするにも、毎日洗ふもの、一日おきのもの、一週に二度或は一度のもの、一月に一度のものといふやうに豫定を立てて行なふのであります。衣更への時には、必ず、今まで着てゐたものの仕立て直し、繕ひ、場合によつては補充の途を考へて、次の季節までに、これらのものが手落ちなく整然と用意されてゐるやうにするのです。すべて針を持つことが楽しみで、手まめにできる一面には、かうした豫定のある裁ち縫ひでもありがたいものであります。家々にこの種の計畫的生

活が普及すれば、國の衣料對策も、消費規正も、やさしい事となるのであります。

一日のうち、何時間を衣類の世話に費すことが許されるかといふことは、ずいぶん大きな問題であります。が、破れないうちの手入れ、ひどく汚れないうちの洗濯、入用に先立つての裁縫といふやうに、いつも先手先手に処理をして行くのが、くり廻しの急所だといへます。かうして、衣料が得難く、且つ忙しい時代にあつても、國民がさつぱりとして心ゆだかな装ひをすることができるようにするのは、正に私ども女子の引き受けなければならない責任であります。

問

(一)「衣類生活」の記録を取りまとめて、今後一箇年の計畫を立ててごらんさい。

(二)これまで手づから試みたくり廻しの經驗を取りまとめてごらんさい。

(三)次に掲げたくり廻しの實例を見て、(一)の衣類計畫の參考とすべき點を考へなさい。

い おとな物ゆかた一枚から、標準服甲型一枚、幼兒服(その三)五歳の子供の物二枚、同じ子供の肌じゆばん一枚。

ろ 男子白がすり一枚から、男子開襟シャツ二枚。

は 風呂敷大の残り布から乳兒の袖なし羽織一枚(裏は別布)。

(四)寢具の手入れについては、一年の計畫をどんなに立てましたか、その中どんな手傳ひができますか。

八 結び

昔から女子の修行の大きな領域を占めてゐた針仕事は、同時に、女の道のじつけでもありました。今、私どもの裁縫のかけこも同じことで、すが、この五箇年、私どもはこれによつてとれだけのたしなみを得たでせう。

さちんとした長着、歩きよいもんべ、便利な作業前掛、温かな足袋など、自分で作つてみて、一枚一枚の着物のよさが一段とよくわかりました。きれいに洗濯をすました時の氣持は、身も心もさつぱりと清められたやうでした。たんねんに、心をこめて縫つた靴下のはき心地はまた格別でした。かうして自分自身の身なりを整へるばかりでなく、うち中の人の衣類の世話が出来るやうになることは、ほんたうに嬉しいことです。

昔の修行は針仕事だけではありませんでした。どこの家でも、女手で麻や棉を畑に植ゑたり、蠶を飼つたりして、糸の原料をとりました。さうしてそれを糸車にかけて、丈夫な糸を紡ぎ出し、それをまた自分で染めて、手機にかけて織りました。祖母の苦心の摘手本が、形見として女の子にのこされました。それで女の子は七つ八つの頃から、糸を紡ぐことや機を織ることを一心に修行して、大そう上手に出来ました。

五六十年も前から、機械で糸を紡ぎ、機械で織物を織るやうになり、主婦の仕事は大分らくになりましたが、わが國がちよつとの間に世界有数の織物國になつて、一時、世界中に衣料を供給したその陰には、紡ぎ出し織り出す女子の大きな働きがあつたのでした。この女子の働きで、

どんなにわが國を益することができたかわかりません。
今は女子の修行が非常に廣汎になりましたから、糸針にだけ専念することは許されません。しかし、この道に拙くては、主婦たる資格も十分だとはいへないのです。糸針のわざが、家を養へる女子の大切な道であることは、今も昔とかはりがないのであります。

昭和二十一年五月二十八日 翻刻印刷
昭和二十一年八月五日 翻刻發行
(昭和二十一年五月二十八日 翻刻發行)

高等科裁縫 第二學年用(第二分冊)

定價金 六 拾 錢

著作權所有 發行所 文 部 省

翻 行 者 東京都京橋區銀座一ノ五

代 表 者 大日本圖書株式會社

印 刷 者 佐久間 長吉郎

印 刷 所 東京都半田區市谷加賀町一ノ三

大日本印刷株式會社

Approved by Ministry
of Education
(Dated May 28, 1946.)

發行所 東京都京橋區銀座一丁目五番地

大日本圖書株式會社

150.5
3
(72分冊)